

ひかる石の生きびと

ひかる石は生きびと

2年 H・Aさん

わたしは、ひかる石が大むかしには一本の木で、それが細かくくだけて、またかたまって長い時間をかけて石の形になったのかも知れない、生きていたのかも知れないという話がとても好きです。木だったころはどんな形のはっぱで、どんな色の花をさかせていたのかなと考えると、にわにおちている石も生きていますように見えてきます。

おばあちゃんの家で金魚を五ひき買ったつぎの日に、わたしが一番気に入っていた金魚がしんでしまったことがあります。

パパと土にうめてあげている時に、

「金魚さんはしんでしまったけど、土の中で虫さんが食べてうんちをして、土のえいようになって、おばあちゃんにわのお花の「ぶ」になるんだよ。」

と、なっているわたしをなぐさめてくれたのですが、わたしは金魚が虫に食べられて形がなくなることがさびしくて、ふけいになってしまいました。

この本を読んで、金魚のいのちが土になって、花になってつづいていく話がわかった気がします。かえでくんも二匹と会えないと思っていたお母さんが、ひかる石やお父さんとおしゃべりの中にもかんじられるようになって、お母さんのいのちもつづいているような気もちになった時、また話ができるようになったのだと思います。

それでも、わたしは家ぞくやお気に入りのおうぶつには長生きしてほしいです。いっしょにたくさんすごしたりあそんだりしたいです。いつかパパとママといっしょにこの本に出てきた化石の森にも行ってみたいと思いました。